

武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2024.5.25 No.24



第18回研究大会が終了 40名の参加となりました

3月9日に開催された第18回武庫川臨床教育学会は、40名（対面38名、オンライン2名）の参加者を得て開催することができました。たくさんのご参加・ご協力、ありがとうございました。様々な感想が寄せられましたが、企画・内容の点、参加組織の点、当日運営の点から、参加者の感想を紹介しながら振り返ってみたいと思います。

7本の自由研究発表は、非会員の方（招待発表者）からの新鮮な報告があり、新たな学びにつながりました。シンポジウムは、2名の登壇者による話題提起が具体的かつ興味深く、その後のグループ討論においても参加者それぞれが自分と臨床教育学との関係を振り返る場になりました。福井講演は、子ども理解の意味、対人援助職の立ち位置などが具体的に語られ、山形実践の核心に迫ることができました。また、会員組織の面では2名の方が新たに参加されました。今大会は、会員以外にも積極的な呼びかけし、初参加の方が増えました。以下、いくつか感想を紹介します。

【自由研究発表】

- ◆ 自由研究発表は限られた時間なので、無理に深めずに問題意識の交流として考え、進行しました。参加者の討議をどう深めるかについては意見交流の中で学んでいただいてもいいのではないかと、司会の難しさもあるが楽しさもありました。レポート発表者のまとめをみると「発表の機会がありよかった」という声が多数でした。
- ◆ それぞれの分科会参加人数は5人から10人でした。短い時間ですが、深い討議ができました。会員外では大学院生からの発表がありました。発表の層をどう広げていくかが課題です。ここ数年、発表メンバーが固定しています。同期の仲間に呼びかけたところ、参加が増え、発表もしてもらいました。

武庫川臨床教育学会

<http://mukogawarinkyo.com/>

〒663-8558

兵庫県西宮市池開町 6-46

武庫川女子大学教育研究所内

電話番号:075-922-7749（吉益自宅）

メール: mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

【シンポジウム】

- ◆ 武庫川において臨床教育学を体験的に学ばれ、その後も独自に深められている様子が感じられ、自分に置き換えて考えることができた。一人ひとりの個別具体的な実感と思考を、時間をかけて聴くことができてよかった。また、参加者をグループに分けて、自分たちの自己紹介を含めた「私と臨床教育学」について語りあった時間は新鮮かつ意味深かった。大学院を修了してしまった途端に、それぞれが何をしていた、何を感ず考えているのかわからなくなってしまう。この地域学会は、修了後の関係をあらためて結ぶ付ける役割をもっていることに、あらためて気づくことができた。
- ◆ シンポジストのお話に触発されてか、グループワークも和気あいあいとして活発な発言が続いていたように思います。もっと時間があってもよかったかな、というのが率直な感想です。

【福井講演】

- ◆ 今回も会員ではない方が講演のために参加してくださったり、それをきっかけに入会してくださったりしたことから、改めて講演者の選択の重要性を感じました。講演者の選定や依頼など、理事会で早くから動き出さなければならぬと思いました。
- ◆ ひとつの実践（山形実践）を長い間注目し続け、実践者の近くで研究的に関わってきた者だからこそ話すことのできる内容であり、大変興味深かった。本来であれば、実践者の山形さんの視点で教師の実感とともに実践の紹介がされ、その意味付けが福井先生によってされる予定だったのだと思うが、福井先生の多大なる努力によって、講演として学びある内容であったのではないかと感じている。今後、山形さんの講演も、あきらめずにアプローチしてほしい。

【企画・参加組織について】

- ◆ 参加人数は40名で、うちオンライン参加が2名でした。オンラインの開催を今後どうするか検討が必要です。今後は基本を対面開催にするが、今回のオンライン参加は新入会員と卒業されて遠方におられる方の参加で歓迎されました。今後も状況を見て今回のような開催方法を模索することにはしたいと思います。
- ◆ オンラインでの参加者がとても少なかったため、次回からは現地参加のみにしても良いのではないのでしょうか。会員の参加が増えるよう、例えば自由研究発表の分科会の一つを同窓会のようにするのはいかがでしょうか（自由な懇話会など）。今回、シンポジウムの一部を意見交流にして、ただ聴くだけでなく気軽に発言できる場があったことは良かったのではないかと感じています。そして、古くからの会員の方ほど先に「私と臨床教育学」をシンポジウムで語っていただく必要があると思います。
- ◆ 小さな学会ではありますが、こじんまりとして中身の濃い研究発表会でした。終了後の懇親会には多数の方が参加していただき有難かったのですが、会場が狭く自由に動けなかったため参加者との交流が十分できなかったことは残念でした。（3年ぶりの懇親会は16名参加）

新しく加入された会員の紹介

○ 阿曾 奈生さん（姫路大学）

昨年3月までの20年間、宍粟市の小学校に勤務し、今年度より大学教員として教員養成に携わっております。研究としては、教師の学びの場づくりや教師の成長等の教師教育、生活科や総合的な学習の時間を中心とした地域学習、そして不登校児童生徒の探究学習等、これまでの経験を生かして幅広くおこなっております。いずれも子どもや教師（教師をめざす大学生）の営みをもとに研究しています。そのため、貴学会に参加させていただき、臨床教育学を学ばせていただきたいと思います。（ご本人よりメッセージをいただきました。）

○ 道前 弘志さん

元会長の福井雅英氏と山形志保さんが著した『保健室から創る希望』をきっかけとして、武庫川臨床教育学会の大会に来ていただき、本学会への入会を決められました。

小さな学習会の報告

4月6日（土）、ポーランド視察をされ、前回大会の講演者である丸山美和さんとも現地で対話をされた北川健次さんに報告していただきました。詳細な写真を提示しながら報告され、ウクライナからの難民の状況、ポーランドの子どもたちとの対話、小学生、大学生との授業などにも触れられました。ヨーロッパの街並みの美しさ、その一方で抱える歴史としての重み、ナチスに対する怒り、ソ連型社会主義への疑問など、多岐にわたる丁寧な報告でありました。丸山美和さんの新著『ルポ 悲しみと希望のウクライナ』も紹介され、丸山さんと話されたこと、食事の様子など臨場感あふれる内容でした。北川さん、お忙しいなかご報告していただき、ありがとうございました。

今後の予定（小さな学習会と現場訪問）

- ◆ 第2回 7月6日（土） **大学教育を考える座談会** 話題提供：中西 千奈都さん、二羽 礼さん
3月の大会の自由研究発表をされたお二人から今の大学の教育、教員養成の現状・課題について問題提起していただき、参加者と意見交流を行います。座談会、パネルディスカッションのような学習会を考えています。
- ◆ 第3回 9月7日（土） **今日の福祉教育実践（仮題）** 話題提供：小西 健太さん
テーマとして、「児童養護施設の現状と、入所中の子どもたちが抱える社会とのギャップ、退所後の子どもたちの社会的な孤立」について、具体的なエピソードを交えて共有したいと考えています。
- ◆ 第4回 11月2日（土） **保健室から紡ぐ希望** 話題提供：山形 志保さん
3月の研究大会では参加できなかった山形さんに、今回はオンラインに変えて実践報告をしていただきます。保健室の状況、対人援助職の立ち位置、いま求められている子ども理解の観点などに触れていただきます。
- ◆ 現場訪問 8月31日（土）（予定） **桃山学院教育大学訪問** 話題提供：加藤 恵美子さん
教員養成の在り方、困難を抱えながらも長く教員を続けるために大切なことは何か、共に考えあう予定です。

※「小さな学習会」は、いずれも午後2時からオンラインで開催いたします。参加希望の方は下記の事務局メールアドレスにご連絡ください。初参加でも久しぶりの参加でも、気軽にご参加ください。

事務局メールアドレス mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

※ 参加を申し込まれた方に、後日、URLを送信いたします。なお、第2回の申し込み締め切りは6月30日です。

役員選挙の告知を予定しております

今年度は、役員選挙があります。田邊美香さん、今井美樹さんに選挙管理委員を務めていただきます。次回のニュースレター25号とともに選挙投票用紙を郵送いたします。投票方法や詳細については、次回郵送物をご確認ください。

なお、現在の理事の任期は、2024年8月末となるため、その前後に投票期間を設定する予定です。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

皆様の連絡先（メールアドレス）を事務局にお知らせください

今後、郵便物の送料が上がるのが予想されるため、このニュースレターも電子データとしてメールに添付をし、会員の皆さんにお送りすることを検討しております。また、学習会や大会案内についてもメールの活用を増やしていく予定です。そこで、会員の皆様の最新のメールアドレスを確認いただけないでしょうか。お手隙の時で構いませんので、ご協力をお願いします。メールを送る際は、メールの件名に「メールアドレスの報告」と入力の上、メール本文に氏名とご所属を記してください。また、武庫川女子大学大学院の修了生の方で、入学年度がわかる方は、入学年度も付記していただけると幸いです。お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。 [事務局メールアドレス mukogawarinkyo@yahoo.co.jp](mailto:mukogawarinkyo@yahoo.co.jp)

学びつづけ、教え教えられる場

田邊 実香

私は、幼児教育学科を卒業後、2人目が生まれるまで私立幼稚園で幼稚園教諭として従事していました。卒業前にゼミの先生から「石の上にも3年、現場で3年はやりなさい」と言われ、「3年続ける事がそんなにも大変であるのだろうか」と思いつつ、仕事に就きました。

保育の現場では、学生時代と違い、様々な人間関係や責任があり、それに伴う緊張と不安はあるものの、毎日が新しくあつという間に3年が過ぎました。少しずつ保育にも慣れてきた時に結婚、出産と、独身時代には考えなかった人生の岐路に多々立ちながら、保育の道を歩んできました。

そんなある時、家族で地域小規模児童養護施設の住み込みをする事になりました。社会的養護の子どもたちや保護者と接する中で、「もっともっと私にできる事があるのではないかと考え、日々奮闘していました。その後、配置換えで保育園での従事に当たることになりました。社会的養護中心の生活から日中の保育へ移り、以前に増して多角的に保育を見る事が出来るようになった自分に気づきました。その中で、「過去を振り返ると自分の保育の武器になるものは何か？今後、私に出来ることは何か？」と考えている日々の中で、私は臨床教育学という学びに出会いました。この領域を学ぶことを通して、私の今までと、これからを繋ぐ事ができるのではないかと考え、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床教育学専攻へ入学しました。そこでは、また新たに他職種の方々と出会い、話を聞き、同じ授業を受ける事から、多くリスペクトする事がありました。しかし、リスペクトするだけでなく、それらを保育などに取り入れる事で、同じ保育でも掘り下げ考える力がついていく事にも気づかされました。

もし私が臨床教育学を知らずに歩んでいたならば、物事を多角的に捉え、日々研鑽しようと時間を取る事なく、狭い視野での考えで偏りが出ていたのではないだろうかと考えます。学内の自主ゼミに参加することで、多くの諸先輩方の日々の研鑽の姿や多角的に物事を考えられる姿、また命尽きるまで学ばれる姿を見た時に、私自身まだまだやらなければならないと考えました。臨床教育学の場所とは、「学びつづけ、教え教えられる場」であり、私たちの身近にある場なのではないかと感じています。

※ 次回は田中佑弥さんです。

編集後記

▲武庫川臨床教育学会第18回研究大会の特集・まとめの号です。参加率36%という出席で開催することができました。3年ぶりの懇親会も和やかに実施することができ、充実したひとときでした。オンラインの会議が慣れてきた中で、じっくりとした対面での交流も充実したひとときでした。ご参加された皆様ありがとうございました。▲シンポジウムに参加された方でグループ討論をしました。短い時間でしたが、お互いに語り合うのは貴重でした。やはり、お互いに語り合うことは大切ですね。▲今年の小さな研究会第1回目は北川会員のご報告、実際にポーランドへ見学に行ったような気持ちになった、臨場感あふれるものでした。小さな研究会、今年1年間の企画が考えられました。次回も、この研究会で皆さんとの出会いを楽しみにしています。<文責：吉益>